

親しんでもらう柔道を

島根県立大教授が事例集



柔道の魅力について話す西村健一教授
 一松江市浜乃木7丁目、島根県立大松江キャンパス

島根県立大学(松江市浜乃木7丁目)の西村健一教授(50)は特別支援教育に柔道への理解を促し、親しんでもらうための事例集「誰一人取り残さない柔道」を出版した。

競技経験30年以上の西村教授が「強くなるためだけでなく、多くの人に親しんでもらう柔道」を伝えようと企画。柔道を取り入れた教育を手がけるNPO法人「judo3・0」(宮城県女川町)の代表理事とともに国内外の団体取材し、A4判、62ページまとめた。受け身と遊びが柔道を広げる▽発達凸凹の子どもに柔道を届ける▽若くて健康

な男子以外の人々の柔道を開拓の3章で構成。道場を子どもの遊び場として捉えたり、受け身をけが予防の方法として伝授したり、柔道を精神疾患の治療として取り入れたりするなど、柔道を新たな視点で紹介する。

このうち1章では、けがの予防として益田市の保育園が実践する、猫や亀の動きをなぞらえた受け身の指導事例を載せている。西村教授は「柔道にはさまざまな可能性があること知ってほしい」と話す。

NPO法人「judo3・0」が発行し、税込み1100円。

(井上雅子)

紙面編集・横田 晴香

インクルーシブ社会へ

島根県立大准教授 水内さん「入門書」

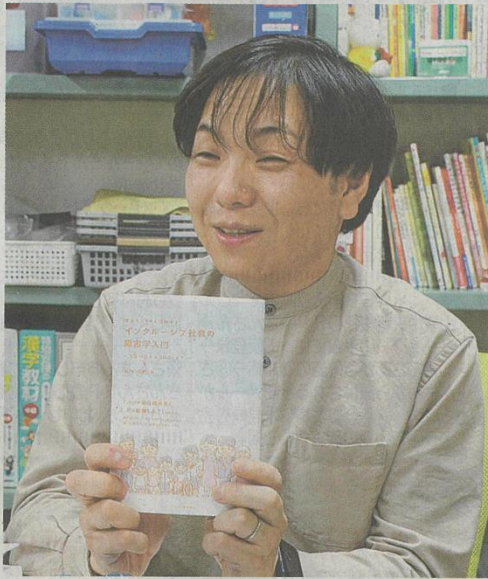
インクルーシブという単語を耳にする機会が増えた。「包括」を意味し、インクルーシブ社会といえは、障害の有無に関係なく誰もが当たり前に生活できる社会の意味になる。島根県立大の水内豊和准教授(47)が著した『インクルーシブ社会の障害学入門』は、「運転」や「昔話」など身近な事柄と関連付けて障害について考えてもらいながら、よりよい社会を目指す。

(坂上晴香)

水内准教授は帝京大准教授を経て4月に県立大人間文化学部保育教育学科に着任した。これまで約20年「あたりまえへのアクセス」をテーマに、知的・発達障害児の家族支援を研究してきた。あたりまえへのアクセスとは、周囲の人や社会常識から期待される「あたりまえ」ではなく、障害のある当事者が思い描く

「あたりまえ」を実現するサポートを考えることを意味するということ。その研究を基につづった本は「〇〇×障害」という形式のタイトルを付けた27講義で構成する。「運転×障害」では、障害のある人が運転免許証を取りたい理由は単に運転するためだけでなく、「『免許そのもの』が本人のアイデ

ンティティに大きな意味」をなすと記す。店で会員証を作るときなどの身分証明に、障害者手帳ではなく運転免許証を示したいと思っている障害者が「圧倒的に多い」と、思いを代弁する。その上で、自らが協力してきた栃木県内の自動車教習所の「つばきプラン」を紹介。発達障害や知的障害のある



インクルーシブ社会について解説する水内豊和准教授
|| 松江市浜乃木7丁目、島根県立大

カラオケ

ビール

昔話

運転

身近な事柄と障害考える

教習生の学科・技能教習に「コーティネーターが同席して免許取得をサポートする取り組みで、全国の教習所で導入が広がりにつつあることを伝えている。

「昔話×障害」では、出雲地方にまつわる神話から障害を考えようと、イザナキとイザナミから生まれた最初の子でヒルコという神は、3歳になっても立つことができず海に流し捨てられた話などを取り上げた。障害者に無理解な時代は、障害は本人が努力して改善克服するものと考えられた歴史を説明し、今の世界的潮流は障害を「本人の特性とそれを取り巻く社会との相互作用で捉える」と時代の変化を説く。

幅広い世代が興味を持てるよう、他にもビール、カラオケ、年賀状、ピクトグラムなどをテーマに挙げ、文章も親しみやすい。講義の最後には「調べてみようと考えてみようやってみよう」と題して課題を示し、それぞれのテーマへの理解を深める仕掛けをつくっており、大学の実際の講義でもこの本を使っているという。

水内准教授は「障害を自分事と感じ、インクルーシブ社会を構築するために自分ができることを考えてほしい」と呼びかける。

四六判、236頁。シアース教育新社刊。1650円。

日光浴や運動有効



島根県立大

前林英貴准教授

子どもの生活リズムを整えるには、睡眠が重要だ。心身の健やかな成長のために気を付けたいことを、島根県立大学人間文化学部の前林英貴准教授(51) 〓小児保健学〓に聞いた。

未就学児は遅くとも午後9時には就寝し、11時間程度眠るのを目安にしたい。朝は日光を浴びることが有効だ。前林准教授は「いくつも目覚まし時計をセツトするよりも、カーテンを開けて部屋を明るくした方が目覚めやすい」とアドバイスする。夜しっかり眠るには、昼間に体を十分に動かす必要がある。睡眠時間が足りないために体が覚醒せず、日

中の活動が不足すると、より眠れなくなる悪循環に陥る。寝付きが悪くなるため、午睡は遅くとも午後3時には切り上げよう。

体温が下がり始めると、眠気が強くなる。眠くなつた子どもの手足が温かいのは、熱を放出して体温を下げているため。入浴は就寝の1時間前に済ませ、飲み物を飲ませるなどして、体の熱が下がり始めた頃に布団に誘い、寝かしつけるといいそうだ。

睡眠と覚醒のリズムが崩れ、活動すべき時間帯に起きられなくなる「概日リズム睡眠障害」は、塾や部活動で忙しい子ほど多いといい、注意が必要だ。前林准教授は「幼い頃の生活リズムは大人になっても基礎になる。長い目で見て、子どものうちに整えておくことが大切」と話している。

(山口春絵)